

看護部
だより

ナースキャップ

No.16

安全な医療の提供のために

三点認証はじめました

看護事務室 杉山久美子
医療の高度化に伴い、治療や検査数が年々増加している中、患者間違いによる問題が大きくなってきている。今日この頃です。

昨年、当院の危険要因分析レポートの要因別分類の中で、思い込みや確認不足によるものが、約6割を占めていました。このデータを基に今年度は、確認行為を徹底することを看護部の目標としています。具体的には指差し呼称の徹底と同時に、7月から看護支援システムの変更に伴い、バーコードリーダーによる3点認証を実施するようになりました。注射や採血の準備の段階では、指差し呼称で確認し、患者様のベットサイドではバーコードリーダーを使用しています。まず実施者のバーコードを読み取り、実施者を認証し、その後患者様のリストバンドで患者認証し、実施する注射薬や検体を読み取り、患者様のものであるかを確認します。実施の準備・実施する際の確認方法を徹底することで、思い込みや確認不足による患者間違いをなくし、患者様に、安全な医療を提供していきます。



中堅ナース 研修

中堅研修に参加して

4階西病棟 前田久美子

7月26日、中堅ラダーコースの研修に参加しました。

午前中は、中堅としての自分の役割は何かを考え、看護師として大切にしていることを話し合いました。経験も部署も違うメンバーで話をするうちに新鮮な気持ちになり、もう一度自分を見直す機会となりました。

午後は、部署ごとに安全な療養環境をテーマに、具体的な活動目標と活動計画を立てました。普段仕事をしている時には気がつきませんが、改めてみるといくと改善すべき点がいろいろありました。

今後は、計画に沿って、中堅として病棟全体に働きかけ、スローガンの『あなたの力が組織を変える』を目指していきたいと思えます。



富士登山

5階東病棟 石川真弓

輝きナース

パート 2

須走口五合目からの出発。なだらかな坂道から始まった登山ですが、徐々に気温も下がり、寒いやら、空気が薄くなり苦しいやらで、半泣きでした。

やめることは簡単なのに、やめられない。文明が進んだ現代なのに、目的の『頂上』へは自分の足でしか行けない。心の弱さと向き合う時間ができました。

八合目で一泊して、元気に二日目出発。濃霧で、九合目がわからなかった私は、「やっと九合目！」と叫んだ瞬間が、頂上：私らしいゴールでした。

ずっとあこがれていた富士登山。体はボロボロでしたが、リフレッシュでき最高でした。富士山には五個の登山口があります。喉元過ぎればなんとやら…目標はどうか『全登山口制覇』です。



左：お父さん 中央：石川真弓さん 右：お姉さん